

富に関する教え⑤要約(1)

ルカの福音書16章10-13節
2013,8,4 HKJCF

概観

- 序)①富に関しては生産面と消費面がある②主の譬えも両面③今回は消費面
- 1、墮罪前の人間と富
 - 2、墮罪後の人間と富
 - 3、回復した神の子と富
 - 4、適用と祈り

I 墮罪前の人間と富

- 1、創造された世界は全て良かった:聖書
→×精神主義 ×物質主義
○恵みの世界○信頼と愛が優先 制度<人
- 2、エデンの園では必要が満たされていた
労働は苦痛でなく、死もなかった
→恵み(愛の交わりと使命) 創世記1:26-8
- 3、エデンの園の豊かさ=天国の豊かさ
→恵み 創世記2:10-4 黙示録21:10-27

II 墮罪後の人間と富

- 1、墮罪後は労働が苦痛となり、富の生産と消費の両面に罪の影響が現れた
創世記3:17-9 伝道2:1-11
- 2、富は益となる反面偶像(マモン)となり、人格を持つ者のように人間を支配した
アモス4:6-11
- 3、豊かであることが自己義認と高ぶりを産み、貧乏人の人権は無視された
ルカ16:19-21

III 回復した神の子と富

- 1、律法は墮罪後の人間の経済生活の祝福を回復するに不十分 制度<人 レビ25
- 2、主は人間の業に勝る祝福を示し、罪の赦しにより神と人の愛の交わりを回復
ヨハネ2:11 ルカ5:7 マタイ14:20
- 3、主は信頼と隣人愛による富の使い方
「富を(友)愛するのではなく、人を(友)愛すること」を教えられた 14:金を(友)愛する

IV 適用の祈り

- 1、神様は天の父であり、多様な方法で神の子たちを養って下さることを信頼しよう
- 2、私たちが富とこの世ではなく、神様自身に献身しよう 問題は富の多少ではなく信頼と献身の程度にある
- 3、私たちが神様から預かった富の使い方を賢く考え、神への信頼と人への愛を優先し神の子らしい経済生活を祈ろう